

九月例会御案内

(平成二十九年・通算第六七七回)

公益財団法人協和協会

○御案内

九月二十八日(木) 正午～午後二時半 衆議院第一議員会館 地下一階・第二会議室

一、これからの国政のゆくえ! 十二時二十分～同四十五分

岸 信夫・衆議院議員・前外務副大臣

常に最も忙しい役職なので御遠慮していましたが、お時間を割いていただきました。

二、北朝鮮、中国・ロシアの動向。対する韓国、トランプ米大統領の対応、日本はどうする!

浅海 保・読売新聞東京本社元編集局長・副主筆、現在・順天堂大学教授

さて、金正恩北朝鮮の水爆実験・大陸間弾道ミサイルの誇示・挑発言動。日本人はなお平和を

夢見ておりますが、金正恩の瀬戸際戦略はともすると、一触即発・米朝開戦・世界大戦への危険

を孕んでおります。

この事態は、どうなるか一寸先は分かりませんが、トランプ大統領の対応のあり方を含め、

さまざまな事態を想定し、その場合の日本の対処方法を考えておく必要があると思ひ、それには、

読売新聞元編集局長・副主筆として、グローバルに国際関係を見て来られた浅海保先生が適任と

思ひ、お願いしました。最重要の課題、奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は四千元、非会員五千元。

公益財団法人協和協会

当日連絡先

080-8836-6203 重田

080-9292-2620 高津

九月二十八日(木)の月例会云に

http://www.kyowakyokai.or.jp (通話のみ)

出席 欠席 (いずれかに○印を)

電話 03-3581-1192

FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様のFAX

メール

▽九月二十六日(火)までに欠の御連絡賜りたく。

○御報告

長年にわたり、当「公益財団法人協和協会」の会員である清水明夫監事(国税庁長官官房元監督官、その後、税理士として現在にいたる)には、法規集の出版を手掛ける「ぎょうせい」出版社の雑誌「税」に、数十年にわたり毎月、時事評論を掲載されていたのを、五、六年分まとまると、編集して単行本として出版されておりましたが、先般、その六冊目を、「この國を思う」との表題を付け、出版されました。

本年六月、当財団は、清水監事からその御著書を百冊ほど寄贈いただきましたので、当協会の役員関係にお送りしたところ、九十四歳の御高齢にかかわらず、これだけの時事評論をよく書かれる。ぜひ直にお話をうかがいたいとの声が届きましたので、去る七月二十六日の月例会にて、「長い人生体験を経て、到達した私の考え方!」と題して、御講話いただきました。その内容は、含蓄のあることばかりでしたので、いま、当協会特有の四頁建ての「写真報告」に編集しておりますので、いづれ、それをお届けいたしますが、その要旨を記しますと、青年期は日支事変から大東亜戦争へ突入した時期、学業も途中で軍務に服し、終戦を大陸で迎えたこと。終戦の翌年に帰国後、昭和二十二年に東京財務局に採用となり、関東信越国税局、東京国税局の各部署を経て、国税庁長官官房監督官の要職も務めた、その間の業績・努力を分かりやすく説明下さり、勉強になった。また、元気で長生きする秘訣として、①新しい言葉はすぐ調べる。②説得力を維持する。③何でも食べる。④人を憎むな。⑤軍隊経験のせいかな、家事を自分でやる等々。そのお話には、一同、大層感銘をもってうかがった。(清原記)

▽当「公益財団法人協和協会」とは、

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を調査研究し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出する」ことにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会のほかに、八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府へ提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は桜内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・前外務副大臣が就任している。

▽事務局電話(03)

3581-1192

代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津